

にいがたのむかしにタイムスリップ！

～ 水にいどむ ～

まずはウォーミングアップ！

むかしの西かんばんら郡はどんな地形だったでしょう？

- ① 大小さまざまな淵がある低い土地で水がたまりやすいところ
- ② 山あいの小さな村があつまっているところ
- ③ 小高いおかの上

1

1. 土地を良くするために行われたのが、三淵にたまった水を日本海に流す、新川掘割工事でした。

1) 新川掘割工事が完成するまでに、のべ何人ぐらいの人がこの仕事をしたでしょう？

- ① 1万人
- ② 10万人
- ③ 200万人

3

2. これは金蔵坂(今の内野小学校のあたり)の工事の様子です。



さて、人々の手で掘り進められた金蔵坂はどれぐらいの高さがあったところでしょう？

19 m

3. これは、西川と新川とを立体的に交差させるための工事の様子です。

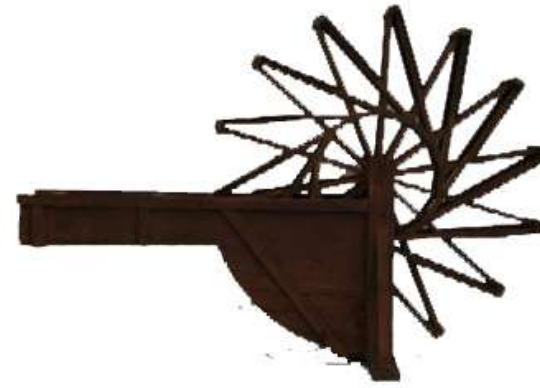


工事をしている人が使っている道具は何でしょう？

みずぐるま
水車

新川底樋埋設工事の模型をみてみましょう

船がうかんで、流れがコの字になっているのが、西川(もともとあった川)、底樋(木で作ったトンネルのようなもの)が作られているのが、これから新川の流れになるところです。底樋が完成したら、このあと、工事はどのように進むと思いますか？



4. 昔の人はこの道具を何のために使ったのでしょうか？

- ① 田んぼの水をきれいにするため
- ② 低い所の水を高い所に組み上げるため

2

新川の工事が完成しても、完全に水がなくなる土地に変わったわけではありませんでした。昔の人々は淵の周りの自然を生きながら暮らしていました。そのころの田んぼは深田とよばれる、水がこしの高さまであるような田んぼでした。

5. これは、昔の農作業に使われていました。道具の名前とその使い道を展示室の中から探してみましょう。

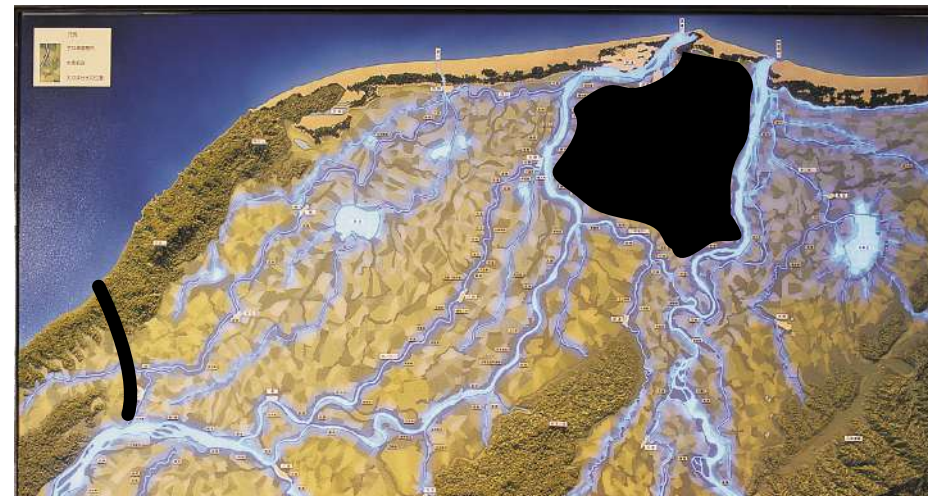


道具の名前
ヒルタビ

ほかにもいろいろな道具があるよ。よくみてみよう。

何のためにつかったの？
田んぼでのしごとのときに、足にはいて、チスイビルにかまれないようにする

6. 新潟では、たびたび大水害がおこりました。今から、100年ほど前に起きた「曾川切れ」といわれる水害で被害を受けたところをぬりつぶしてみましょう。



たび重なる水害をふせぐために、1922(大正11)年に大河津分水が完成しました。

● 大河津分水の場所を線でしめしてみよう。